

審査の結果の要旨

氏名 白石 三恵

本研究は、日本人妊婦の栄養素摂取量を正確に評価できる栄養質問票の確立のため、妊婦 302 名を対象に自記式食事歴法質問票 (DHQ) の妥当性・信頼性の検証を行った。また同時に、栄養質問票では必ず起こり得る系統的測定誤差について把握するため、DHQ の過小申告の判定やその関連要因の探索を行い、下記の結果を得ている。

1. 日本人妊婦における DHQ のタンパク質・ナトリウム・カリウムのエネルギー調整済み摂取量の妥当性を、24 時間尿中排泄量を用いて検証した。その結果、3 栄養素の摂取量と排泄量の Pearson 相関係数は妥当性検証の基準 0.3 を概ね満たしており、DHQ の妥当性が許容範囲にあることが示された。
2. つわり症状のない妊婦におけるタンパク質・カリウムの一日本摂取量の妥当性が示されたことにより、つわり症状のない妊婦においては DHQ によるエネルギー摂取量の推定が可能であることが間接的に示された。
3. 4-5 週間の間隔で DHQ を 2 回実施したところ、DHQ が十分な信頼性を有していることが示された。
4. Bland-Altman プロットの結果から、対象妊婦の一部では、DHQ から推定される栄養素摂取量が妥当である範囲を逸脱した外れ値を示す可能性があることが示された。
5. 妊娠中の DHQ の測定誤差は、グループレベルで過小申告に傾いていた。また、DHQ の過小申告は、自己効力感が低い場合、妊娠前の BMI が低い場合、妊娠前の体型を標準または太っていると認識している場合、調査時体重が妊娠前の体重より少ない場合、産後に妊娠前の体重に戻すために妊娠中の体重増加を抑制している場合、妊娠中に食習慣を改善するつもりがない場合に起こりやすいことが明らかになった。

以上、本研究は、日本人妊婦に使用可能である栄養質問票を確立した初めての研究である。妊娠中における DHQ の確立により、これまでより低資源・低コストで日本人妊婦の栄養に関する調査を実施することを可能とし、栄養素摂取と妊娠合併症の関連の解明にも重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。